

『いま、会いにゆきます』 市川拓司 著 小学館

★「心」がちょっと疲れてませんか?!~心を癒す本~特集!

毎日の学校生活の忙しい日々、心も身体もぐったり。そんな日が続いたら、本を開いて心身ともにリラックスしてみませんか? そのときの自分に寄り添った本を選んで読んでみると、不思議と体の凝りや心の緊張がほぐれるかもしれません。疲れたときに開きたい本を2冊紹介します。

★「雨」の本

小説の中で、雨が印象的に描かれている3作品を紹介します。

★「先生方からのおすすめ本」①を紹介!!

今回は理科 岡田和也先生からのおすすめ本、有川浩さんの「ストーリー・セラー」を紹介します。



「心を癒す本」特集

『思わず考えちゃう』 ヨシタケシンスケ 著 新潮社

ヨシタケさんは、いつも持ち歩いているスケジュール帳の後ろのメモ帳に「思わず考えちゃったこと」をイラストで書きとめています。その絵をどんな気持ちで書いたのか、何が気になったのかも書かれていて、それをまとめたものがこの本です。ほっこりしたり、にやっと笑ってしまったり、「生きるヒント」にもなったりして、嫌な気持ちや心のざわざわも和らぎ、肩の力も抜ける「癒し本」です。

『大丈夫じゃないのに大丈夫なふりをした』

クルベウ 著 ダイヤモンド社

韓国人気作家の「つらくても声に出せないあなたへ」送るエピソード集です。テーマは①肩の力を抜いたら、できることが見えてきた②どんな人でもすべてが嫌になる日はある③好きなだけなのに、どうしてこんなに苦しいんだろう④天職に出会うために今できること⑤幸せな人間関係の築き方。自分が一番気になる章から読み始めてください。心にささる内容にガチガチだった肩の力が自然と抜けていきます。



「雨」の本

『小説 言の葉の庭』

新海誠 著 新潮社



特別展示①「心を癒す本」

高校生の孝雄は、将来靴職人になりたいとっていて、雨の日は学校をさぼって靴のスケッチを書くために新宿御苑に向かいます。そこで、彼は自分の居場所を見失ってしまったという年上の女性雪野と出会います。雨の日の出合いを重ねるうちに、彼女がもっと歩きたくなるような靴を作りたいと孝雄は思うようになりました。6月の梅雨がもうすぐ終わり迎えようとしています。それは、二人の別れが近づいていることでもありました。

新海監督自身が小説化していて、アニメで描き切れなかった人物やドラマが加わっているのもおすすめポイントです。

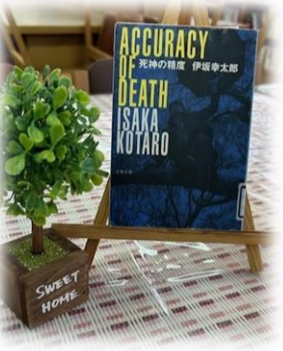


最愛の妻 澪を亡くした巧は、6歳の息子佑司と二人で、寂しさと悲しみに耐え、周囲の人々に支えられながら生きています。「私はもうすぐここからいなくなってしまうけど、またこの雨の季節になったら、二人がどんなふうにも暮らしているのか、きっと確かめに戻ってくるから」。6月の雨の日、死んだはずの澪が記憶を全く失くした状態で、二人の前に突然現れました。映画やドラマにもなった、ファンタジー恋愛小説です。タイトルの意味を知った時、涙が溢れますよ。



『死神の精度』 伊坂幸太郎 著 文芸春秋

死神が主人公の連作短編集です。この死神は、「調査部」と呼ばれる部署に所属し、人間の世界に派遣されてきました。そして、死すべきと定められた人間を1週間観察し、死を「可」とするか「見送る」かを報告し、「可」となった場合は、8日目にその死を見届けるという仕事を担っています。主人公の死神が仕事をする時は、いつも「雨」。どんよりとした空の下で、人間観察を続けます。対象者は若い女性や老婆など、時や場所は異なっていますが、6作品、最後まで読み進めると、どれも微妙に繋がっていくのが、この作品の最大の魅力だと思います。



先生方からのおすすめ本 ①

『ストーリー・セラー』 有川浩 著 幻冬舎

(あらすじ)

妻の病名は致死性脳劣化症候群。複雑な思考をすればするほど、脳が劣化し、やがて死に至る不治の病。生きたければ、作家という仕事を辞めるしかない。医師に宣告された夫は妻に言った。「どんなひどいことになっても俺がいる。だから家に帰ろう。」妻は小説を書かない人生を選べるか。極限に追いつめられた夫婦を描く、心震えるストーリーです。

(おすすめポイント)

この本は sideA と sideB に分かれています。sideA では、本編が綴られていて、sideB には、作中の女性作家(致死性脳劣化症候群を患っている)が書いた小説がストーリーになっています。どちらも、涙は免れないでしょう。そして sideB に関しては「有川浩」という作者自身に重ねられたストーリーになっているという考察もあり、とても奥の深い作品になっています。高校生の皆さんだけでなく、大人になった私たちも感動できる本です。

高校生の皆さんには少し重い話かもしれませんが、本当に大切な人ができた時、その人のことを大事に想ったり、愛してあげたいと再認識させてくれるような本なので、是非、涙してください。」

(理科 岡田和也先生)

特別展示②「本で世界を旅しよう」

